

探訪 北の風景 ⑩

ニセコグランヒラフ

後志管内・倶知安町

青木和弘



札幌市内からスキーバスでニセコグランヒラフ（後志管内倶知安町比羅夫）に向かった。前日までの猛吹雪で、中山峠のエゾマツは枝にたつぷり雪をまとっていた。ニセコに近づくと薄日が差し、やがて羊蹄山がきれいに姿を現した。

北海道中央バスのニセコスキーバスは1日2往復で、月曜の遅い便（札幌駅前ターミナル8時45分）に乗り込んだ。前の方の座席に中国語を話す中年の男女2組がいて、一番後ろにオーストラリア人の若者が大きな体を横たえて眠っている。もう一人の男もその前の席で爆睡中だ。日本人は運

転手と私だけだった。

バスは目的地に15分ほど早く到着した。ヒラフの「ウエルカムセンター」はゲレンデの目の前にあって、バスターミナルを兼ねている。英語や中国語が飛び交い、外国にいるような錯覚にとらわれた。「ここを利用するのは8割は外人さんだよ」とスタッフが教えてくれた。ゲレンデでも日本語を話す一団に出会ったと奇異な感じがするから不思議だ。東洋系はみんな中国人に見え、欧米系は全員オーストラリア人に見えてしまう。

オーストラリア人観光客が増え始めたのは2000年代前半からで、1990年代にニセコを訪れたオーストラリア人の口コミでパウダースノーの魅力が広がったという。深く積もったパウダースノーは、滑るとまるで宙を浮いているような感覚で、圧雪されたゲレンデとは別世界だという。そこで、深い新雪を滑りたいというスキーヤーやボーダーのために「ニセコルール」ができた。

①危険な「春の滝」「湯の沢」への立ち入り禁止
②スキー場外の安全管理は行われていない
③ゲートが閉じられている時はスキー場外に出てはならない
④ニセコ雪崩情報はニセコルールの公式情報である
⑤スキー場外での捜索救助には費用が請求される——など9項目だ。ただ、スキー場に



バスターミナルを兼ねたウエルカムセンター

も圧雪しないコースがあるので、危険な場外での滑走は推奨していない。

オーストラリア人観光客の増加で、スキースクールやガイド、宿泊施設などのリゾート環境が外国資本によって整えられた。英語が通じるので英語圏の香港やシンガポールの富裕層の来訪が増えた。リーマンショックや福島原発事故で一気に急減した客足も、円安を追い風にほぼ回復した。倶知安町とニセコ町に宿泊する外国人観光客が初めて40万人を突破するという。10年前に比べると5倍以上だ。2月19日の旧正月からは台湾など中国系観光客の予約がいつぱいだという。



ゲレンデには色とりどりのウェアに身を包んだ外国人スキーヤーやボーダーの姿が目立つ



レンタルスキーを手にした外国人家族＝ひらふ坂

倶知安町の外国籍世帯数は、03年1月に49世帯だったが、14年12月は過去最多の703世帯（766人）で、同町の世帯数の約9%、人口では約5%を外国人が占めている。

道々343号からゲレンデまでの坂道を「ひらふ坂」と呼ぶ。レジャー用具のレンタルショップやホテル、コンドミニアム、飲食店などが密度濃く建ち並び都会的な雰囲気だ。英語書きの看板が目立ち、外国人の姿が多い。ホットドックの移動販売車も出ていて、羊蹄山の雄姿を眺めながら歩くだけでも外国旅行の気分だ。少し飲み食いするだけでも楽しそうだし、日帰り利用できる温泉もあるので、ドライブの立ち寄りにもお勧めだ。